

授業デザインと評価に関する研究への参画

10月16日（月）、静岡大学：大島純教授・大島律子教授、産業技術大学院大学：大崎理乃助教をお招きして、「授業デザインと評価に関する研究」に係る授業観察を実施しました。

この研究は、子どもたちの「主体的・対話的・深い学び」を社会ネットワーク分析という手法を用いて評価するもので、具体的には子どもたちがどこから知識を獲得し、どのように知識を作り変えて自分のものにしようとしているのかを分析しようとするものです。

今回の訪問は、首藤三奈教諭による化学基礎授業に関するデータ収録を目的とするもので、今後も授業デザインに関する協議が行われる予定です。

本校では「アクティブ・ラーニング型授業にもとづく授業改善」への取組を広島市教育委員会から指定を受けて推進しています。この度の研究への参画は、本校でのこれまでの評価に関する研究と今年度取り組もうとしている「型」や「授業のデザイン」検討に有益な視点をもたらすものと考えています。

3名の先生方には、遠路はるばる広島にまでお越しいただき、ありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

